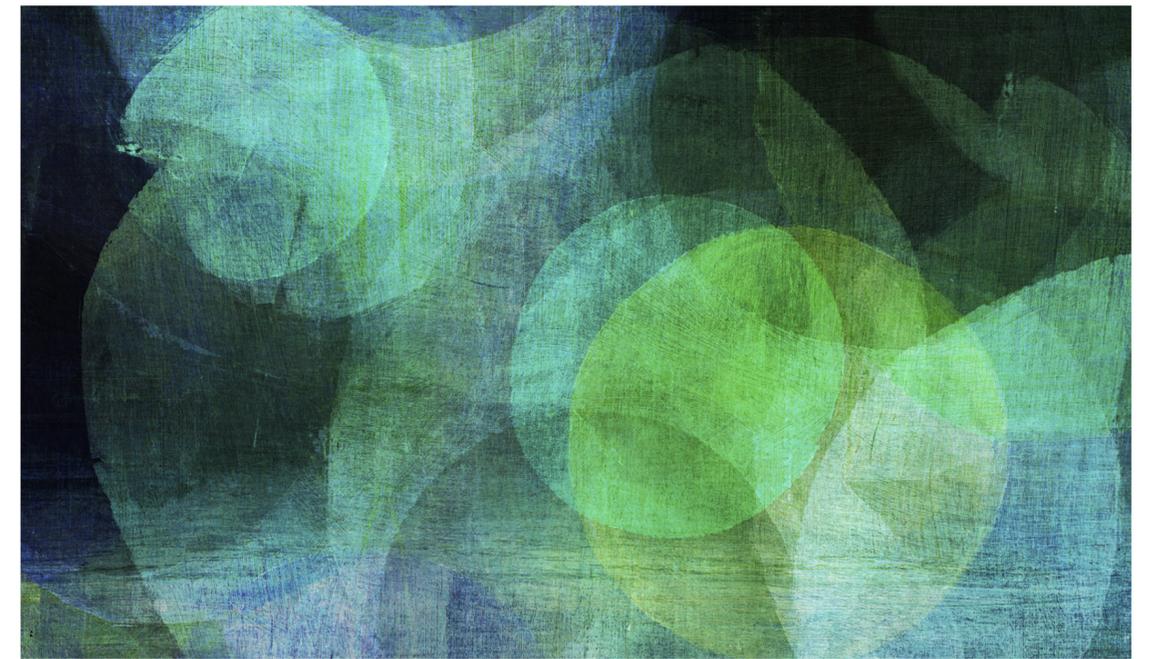


兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー支援グループ活動補助金事業

ケアをする側、受ける側を行き交う揺らぎの中で

アイツグ 石田勇輝



言葉に言い表せない色、体験を、どう共有するか？

なぜ演劇で交流を図ったのか？上演交流会実施の背景

- ▶ 演劇は一つの景色を、その場にいるみんなと共有することができる。共存を演出できる。
- ▶ 人が集まる場所、プライベートを守りつつも、孤独ではない空間を創出できる。
- ▶ 支援をする側、受ける側も対等な立場で想いを共有できる。
- ▶ 演劇でまちづくりをする。
- ▶ 悪者を作らない、原因を家族内に突き止めない鳥瞰の視点で描ける。



取り組みの内容について

- ▶ 会場 豊岡ミリオン座（駅から徒歩10分）
- ▶ リーディング（朗読劇のような形式）
- ▶ 作品「朴（ぼく）」家族内で起きたケア、精神疾患、制度のはざまを生きる経験を描いた戯曲
- ▶ 上演後にお菓子を配って交流会を実施する。
- ▶ 後援 養父市、豊岡市、豊岡アートアクション
- ▶ 協力 ピッコロパルコ



アイツグ 第1回公演

朴リーディング

作演出 石田勇輝

出演

岡野桃子

長谷川光

ヒラザワタケル

石田勇輝

2025 **10.16thu-19sun**

10.16thu 18:30

10.17fri 18:30

10.18sat 18:30

10.19sun 13:00

※受付・開場は開演の30分前です
※上演時間は約80分を予定しています

豊岡 **ミリオン座**
Toyooka Million Za



兵庫県豊岡市中央町4-1 2-1 階

チケット

【CoRich舞台芸術！】

こちらからQRコード予約！



一般 ¥2,000

U30 ¥1,000

U18 入場無料

※当日は、一般、U30チケットは+ ¥500

お問い合わせ

i.tugu2025.1.9@gmail.com

公式X

@itugu2025



演出助手 月見里りた

舞台監督 studio hiari

音響 月見里りた

照明 studio hiari

宣伝美術 とくながのぶひこ

制作 大宮司星

後援

豊岡市/養父市/豊岡アートアクション

協力

Piccolo Palco del Villaggio

助成

ヤングケアラー・若者ケアラー支援グループ活動推進事業補助金

企画・製作

アイツグ

母の『ことば』がわからない。
葵は書き始める。
『どうしてこんなに悲しい気持ちにならなきゃいけないんだろうか』
想いを物語に託し、創造はときを越える。
学校の先生、
友人との魂の会話を通じて、
葵はついに母と、
家族の『ことば』と再び出会う。

取り組みの内容について

- ▶ 8つのシーン構成
- ▶ シーン1 長男の結婚式に集まる家族
- ▶ シーン2 ケアの原体験
- ▶ シーン3 学校
- ▶ シーン4 大学
- ▶ シーン5 精神科クリニック
- ▶ シーン6 病歴就労状況等申立書
- ▶ シーン7 喫茶店 家を出る
- ▶ シーン8 長男の結婚式に集まる家族

この取り組みの中で起きたこと（支援者、行政、家族）

- ▶ なぜお母さんの言葉が理解できるようになったのだろうか？登場人物に悪者はいない、これは素敵だ。
- ▶ 演劇で見ると場面がリアルに浮かび良かった、身近にいるヤングケアラーの人にもぜひ紹介したい。
- ▶ 自分が関わっている認知症カフェでも当人だけでなく家族にも焦点を当てるシーンがとても大事だと思いました。
- ▶ 一般的なヤングケアラーとはちょっと違うかもしれませんが、それがよりリアルで、こういう状況も「ヤングケアラー」なんだと気付かされる内容だった。多感な子どもにとっての影響の大きさを体感した。
- ▶ たくさんの方の今が詰まっていた、誰も、どの人も同じ気持ちになれる言葉があって、なんだかわたしの代わりに話をしてもらっているような気持ちになった。もっと多くの方に見てほしい。特に若い人に。

この取り組みの中で起きたこと（当事者、元当事者）

- ▶ 私が小さい時、母はうつ病になる。小学校の頃から母親と離れ離れに暮らす、会えるのは1年に1、2回で帰り際はこの世の終わりくらい泣いていたのを覚えている。もっと若い頃に障害年金の申請書を書いたが、難しかった～。今後私の家族がどうなっていくかわからないが、この作品に出会えて良かった。
- ▶ 母の妄想がひどくなり、誰にも相談できず、ただ耐えるしかなかった。今回の公演がもっと身近にあればその頃の自分も救われていたのかと思います。
- ▶ 客席の人が泣いていたこと、終演後もみんな帰らずに懸命にアンケートを書いていたこと、そういったひとつひとつが嬉しかったのと同時に、こんなにみんな辛さとか、共感できてしまう何かを持って普通に生活しているのかということに驚いた。

本事業における独自性・価値

- ▶ 支援の形をしていない支援の創出（思いやり、愛、人と人とのつながり、多様性）
集まる人も多様。
- ▶ ケアそのものを表現する。ヤングケアラーってなんだろう？ケアってなんだろう？
- ▶ 作品や上演の場が、誰かを受容し、癒すセラピーとしての機能、障害年金や福祉制度、家族ケアの実態を学ぶ教育としての機能、福祉を題材に演劇として社会構造に落とし込む、当事者演劇の可能性を広げるアートとしての機能。
- ▶ 福祉を福祉だけにとどめない、抱え込ませない、誰もがお互いを支え合える場所。

他地域・他分野への広がり

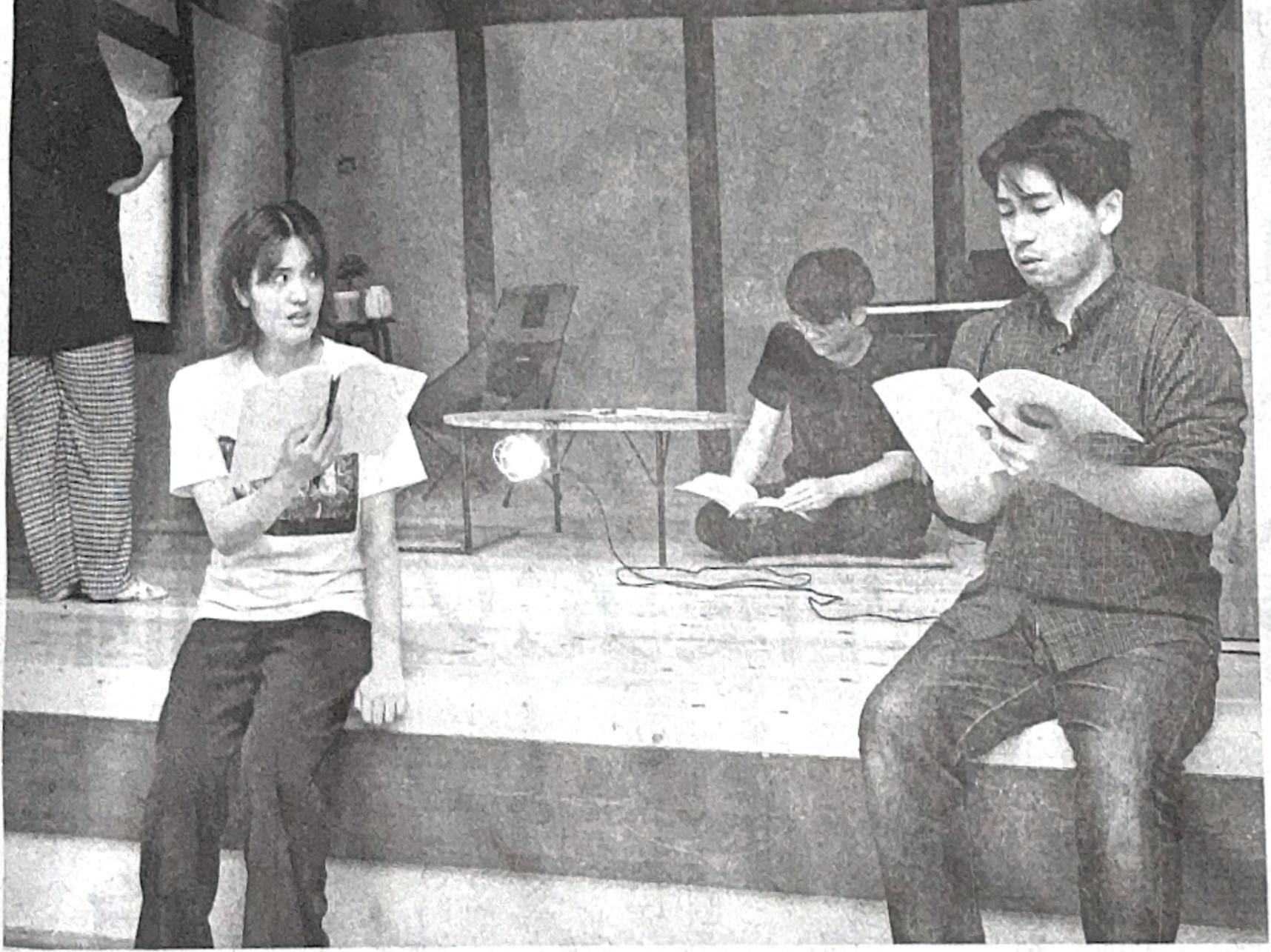
- ▶ 読売新聞より取材、新聞に掲載をいただく。
- ▶ 東京都の精神保健福祉士の専門学校にて、精神科クリニックでの診察、病歴就労状況申立書を記入するシーンを用いて若者ケアラーとその家族の視点を体験する特別授業として行う。
- ▶ 埼玉県朝霞市にて、障害者理解に関する普及啓発事業として、当事者、家族会にて朗読会を実施。
- ▶ 埼玉県朝霞市の就労継続支援B型事業所にてワークショップを行う。
- ▶ 東京都練馬区の世界福祉法人、社協と連携し上演を行う。
- ▶ 養父市ヤングケアラーオンラインサロン

ヤングケアラー 照らす朗読劇

家族の介護や生活の世話を担う子ども「ヤングケアラー」に焦点を当てた朗読劇「朴^{ぼく} リーディング」10日から、豊岡市中央町の劇場「豊岡ミリオン座」で上演される。劇作家としても活動する養父市在住の精神保健福祉士・石田勇輝さん(29)が実体験を交えて書き下ろした。

(熊谷暢聡)

きょうから豊岡



劇作家体験基に 精神疾患母親との苦悩描く

石田さんは本大学演劇学科障害者や家族携わる精神保健士としてきた。現在は同士の業務する傍ら、演劇「ヤングケアラー」を主催し、小学生のほかに、家族関係のサポートでできないと感じてきたこととしてきたこと、2022年後、「演劇を通じてほしい」という思いに執筆。今地方で朗読会を馬地域で初めてなった。

作品では、親との関係にが、学校教員との出会いを通じた士を目指す姿勢と福祉の連携精神保健福祉制度を取り上げた。

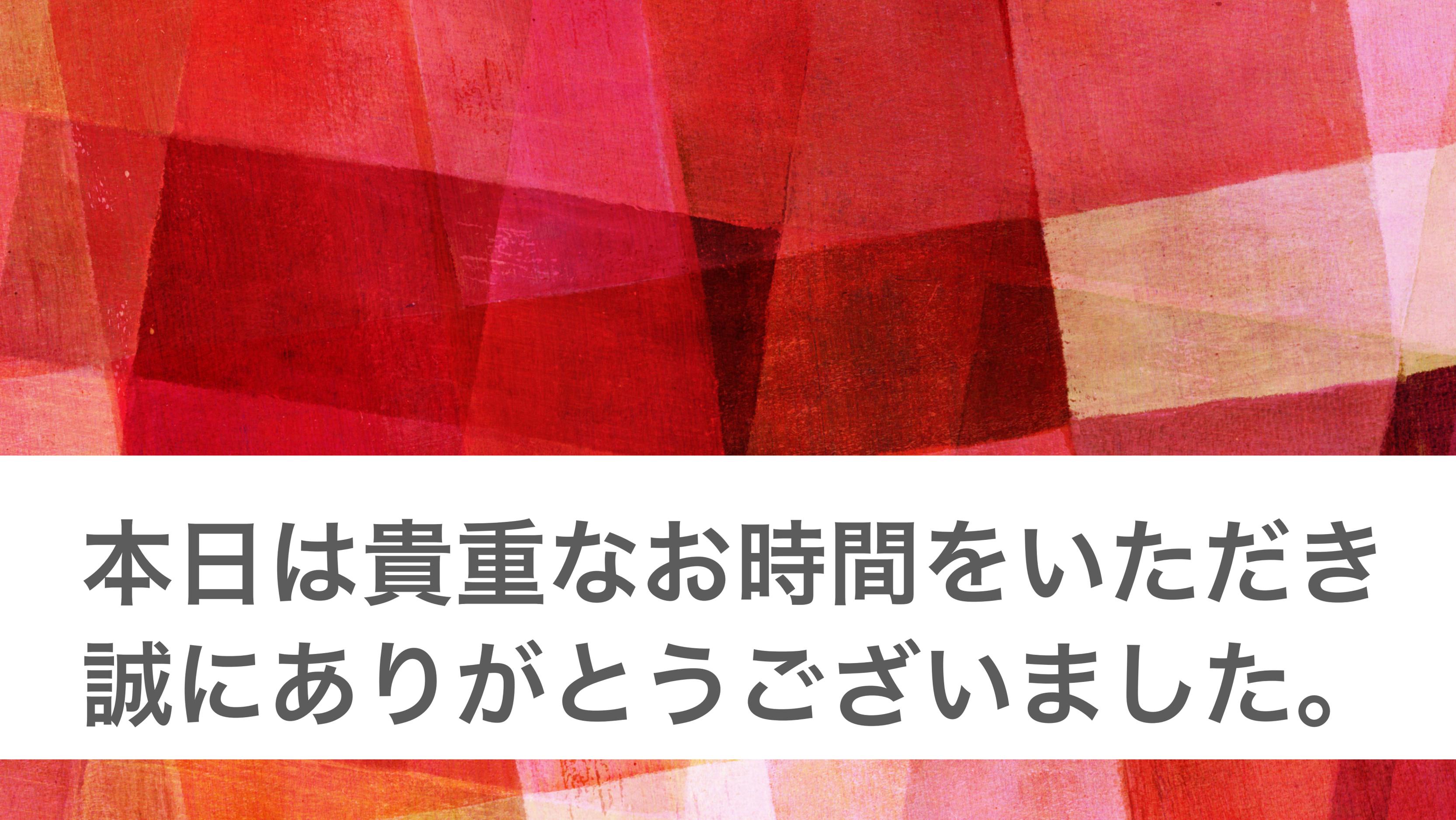
舞台には俳優田さんも出演。「ヤングケアラー」だが、決してうことを伝えたい。

開演時間は1時半、19日が午トは一般2000円増し)のツグのX(旧tugus2000わせばメール9@gmail.co

“

お母さんの問題と君の問題は別だから、君が、君の人生でどう思うか……

朴 より抜粹 -教師 高橋



本日は貴重なお時間をいただき
誠にありがとうございました。